

宮古市民文化会館

所 磯鶏沖 2-22



東日本大震災による津波で被災・休館していましたが、平成26(2014)年12月に復旧しました。大ホール・中ホール・展示室などがあります。

宮古市民総合体育館 (シーアリーナ)

所 小山田 2-1-1



メインアリーナ・総合体育館のほか、相撲場、スポーツフォーラム棟などを併せ持つ施設。スポーツ大会やトレーニングの場として、また各種イベント会場としても多目的に利用されています。

薬師塗漆工芸館



地域の特産資源である木材、漆を使った工芸品、螺鈿などを展示しています。螺鈿技法体験もできます。

※平成27(2015)年12月現在移転工事中

北上山地民俗資料館

所 川井 2-187-1



北上山地の旧川井村(宮古市川井地域)で収集された昔の生活や仕事を支えた道具約8000点を収蔵、約2500点を常設展で紹介しています。畑作による雑穀栽培の用具、樹木の伐採・製材・搬出にかかわる山仕事道具、樹皮を使ってつくられた手作りの道具が特徴的です。

所蔵資料のうち1345点が「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」として国の重要有形民俗文化財に指定されています。昔の技術や自然の素材を使った小物作りの体験学習も行っています。

玄翁館

所 茂市 5-2

牧庵鞭牛と鳥取春陽

▼牧庵鞭牛は、宝永七(1710)年和井内村(現在の宮古市和井内)の農家に生まれました。21歳で出家し、72歳で座禅往生するまで約30年間つるはしを握りしめ、盛岡藩内百里にもおよぶ道路を切り開いたと伝えられています。鞭牛の開削した道は現在の国道106号の基礎ともなりました。

▼鳥取春陽(本名・貫一)は、明治33(1900)年刈屋村(現在の宮古市刈屋)北山に生まれました。

大正11(1922)年には「籠の鳥」をレコード化して大ヒットとなり、大正15(1926)年には日本初のレコード会社専属(歌手・作曲)として「船頭小唄」や「馬賊の唄」を吹き込み、大変な人気を博しました。

宮古街道などを開削した牧庵鞭牛と、「籠の鳥」の作曲者・鳥取春陽の遺品を中心に、数々の資料が展示されています。



牧庵鞭牛の像



鳥取春陽の資料展示室